

ミャンマーの医療人材育成

ミャンマーと十年にわたり学術交流を続けてきた岡山大医学部の教官ら約二十人が中心となり、NPO法人「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」(事務局・岡山市番町)を設立、十二日に総会を開いて、活動を本格化させる。同大医学部などへの留学費用を援助、ミャンマーの医療人材不足解消を岡山から支援する取り組みだ。(藤岡慎吾)

岡山大医学部教官ら



NPO法人のパンフレットを手
に支援を呼び掛ける岡田理事長

軍事政権下のミャンマーは先進諸国政府の援助が長年停止した状態。医療技術の遅れが深刻。感染症まん延などのため平均寿命は男性で五十八歳と、東南アジア全体の平均より七年(世界人口白書2005)も短く、近代医学の空白地帯と言われる。



岡山大は一九九六年からミャンマーの医療機関

と肝炎や肝臓がん対策などで共同研究を実施。日本の大学で唯一ミャンマーと学術交流協定を結ぶなど太いパイプを築く中で「研究だけでなくマンパワー不足を解消しなければミャンマーの医療事情は改善できない」と教官らがNPO法人設立を

支援NPOを設立

会員募り留学費用援助

呼び掛けた。ミャンマーから岡山大医、薬学部や大学院へは、過去十年で約二十人留学しているが、同NPO法人は千人を目標に会員(年会費六千円)を募って資金援助。短期研修を含めて年間十五人程度まで留学生を増やしたい考え。

理事長の岡田茂前医学部長(左)は「グローバル化の進展で、ミャンマーでの感染症まん延は日本人の健康にも直結した問題になった。政府が支援できなくても、民間でできることをしたい」と訴えている。問い合わせは事務局(086-122410102)。
